

自転車利用実態定点調査報告

平成27年 8 月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成27年 7 月 7 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			車種		乗次		危険走行					
	歩道	車道	その他	普通	電動	乗車	降車	歩道	車道	歩道	車道	歩道	その他
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													

調査日時:	平成 年 月 日 ()
実施者:	氏名: _____
調査路線:	_____

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、23%であり、車道右側走行率は、33%・車道中央走行率は、29%・路側帯走行率は、15%の結果であった。

因みに、片側(路側帯の反対側)に歩道があるが、幅員が 60cmと狭いためか、歩道走行率は、0%であった。

◎危険運転行為は、並列運転(44件)・片手運転(16件)・肩に荷物(8件)・カバン背負い(6件)・ハンドルに荷物(5件)・ギター背負い(3件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

また、カバン背負い及びギター背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。(重量やバランスの関係からギター背負いの生徒は、特に注意が必要)

さらに、危険運転行為の中では、並列運転が、全体(82件)の5割強(44件)を占めていた。

事故を招きやすいため、行わないことが望ましい。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数 800人)の5割程度である。

校内には、駐輪場が複数整備(総収容台数 440台/屋根付き 340台:平置き 100台)されていた。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、2箇所(正門・裏門)存在していた。(調査は、自転車利用者数の多い裏門にて実施)

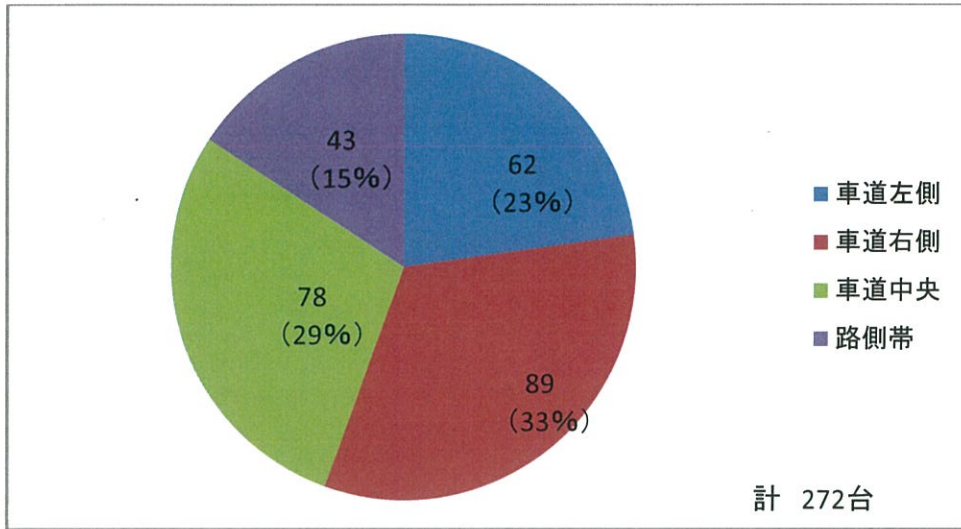
なお、同校裏門の手前の道路は、ゾーン30に指定されていた。

さらに、同道路を挟んで反対側に小学校が存在していた。

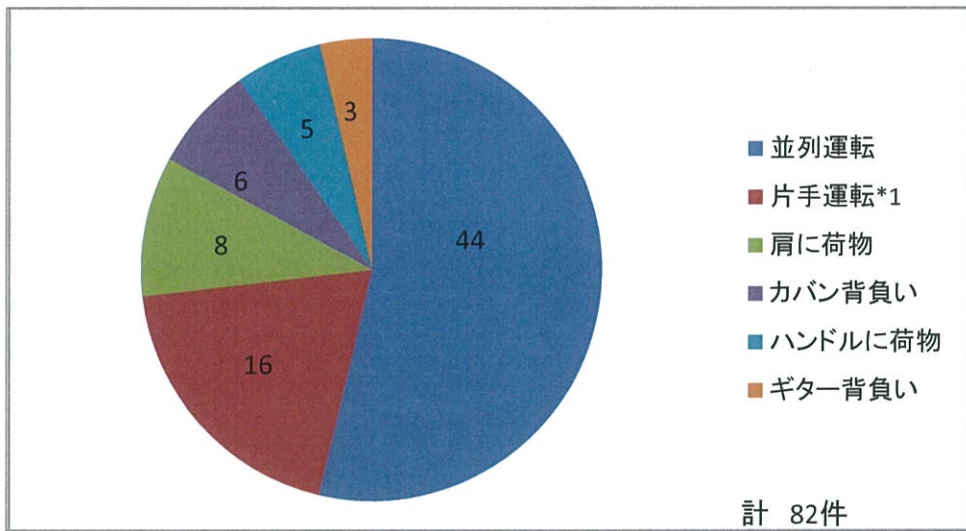
また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、駐輪場周辺にて教諭による自転車通学の指導が行われていた。また、交通安全啓発の一環として、新入生を対象に自転車安全教室、さらに全校生徒(年度末)を対象に交通安全講習会を行っている。

	
<p>自転車駐輪場(全景)</p>	<p>自転車駐輪場(屋根付き)</p>
	
<p>自転車駐輪場(平置き)</p>	
	
<p>校門前道路</p>	<p>同反対側</p>



走行空間



危険運転行為

*1 内4件 携帯電話を使用中の運転